



証券コード:6267

平成20年12月20日

日興アイ・アール株式会社主催
個人投資家向けIR説明会



包装システムの市場創造型トータルプランナー
ゼネラルパッカー株式会社



General Packer
The total planner of a packaging system

目次

- I. 会社概要
- II. 業界の状況と当社の特徴
- III. 事業環境と業績動向
- IV. 新中期経営計画ならびに
2009年7月期業績見通し

I. 会社概要

会社概要(2008年7月31日現在)

- 設立 1966年(創業 1961年)
- 資本金 251百万円
- 発行済株式数 8,994千株
- 売買単位 1,000株
- 決算期 7月末
- 事業内容 各種自動包装機の製造・販売
(食品・化学品・健康食品・医療用品等の包装用機械・システム)
- 従業員数 106名(その他臨時雇用者21名)
- 事業所 本社・工場、東京営業部

沿革

- 1961年 東陽商事(有)を設立
- 1962年 (株)ゼネラルパッカーを設立
- 1966年 東陽商事(有)をゼネラルパッカー販売(株)へ改称
- 1969年 ゼネラルパッカー販売(株)が(株)ゼネラルパッカーを
吸収合併し、商号をゼネラルパッカー(株)と改称
- 1977年 本社工場を新設
- 1989年 本社工場に隣接して社屋(北館)を新設
- 2003年 **ジャスダック市場に上場**
- 2004年 本社工場南隣に社屋(南館)を新設
- 2006年 **平成17年度愛知ブランド企業に認定**
- 2007年 本社工場に隣接して工場(東館)を新設



Aichi
Quality

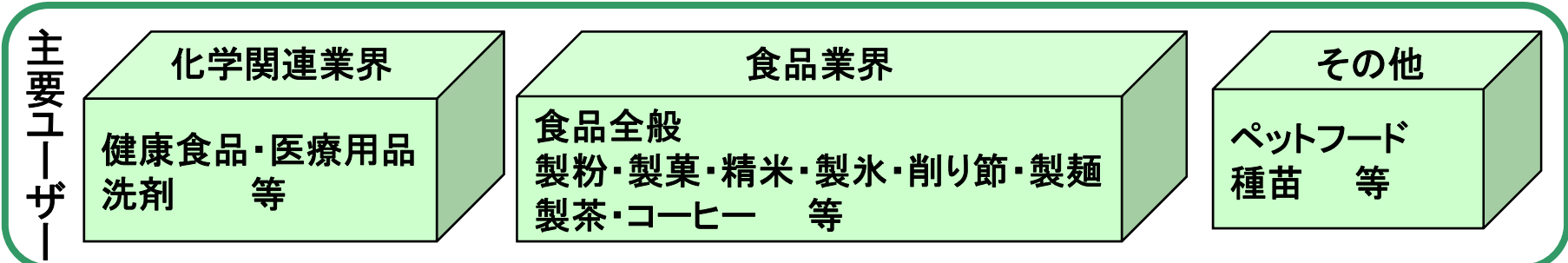
認定番号214

事業内容-1

当社

包装機械・包装システム等を
各ユーザーの工場等へ販売

身近な商品の包装に、当社の
機械が活躍しています。



病院

- 輸液バック
- カテーテル
- 粉末薬品

各店舗
スーパーマーケット
コンビニエンスストア
ドラッグストア
ホームセンター 等

消費者

* 当社機械で包装されている主な袋詰商品例

- 小麦粉
- ふりかけ
- 花かつお
- パン粉
- ナッツ類
- ロックアイス
- 粉末茶
- お米



- スパゲティ
- ドリップコーヒー
- 肥料
- 野菜・花の種
- キャンディ
- 健康食品
- ペットフード
- 粉末洗剤

事業内容-2

袋詰用自動包装機の売上高が約7割



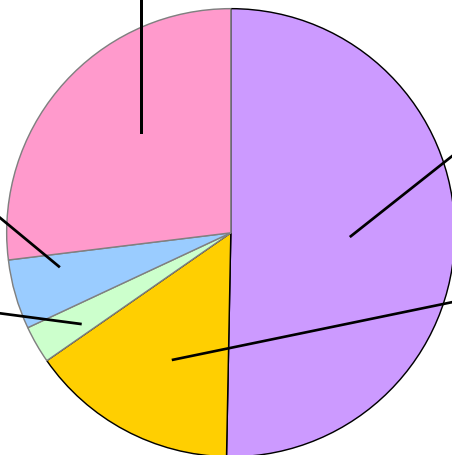
保守消耗部品その他
966百万円
26.9%

包装関連機器等
183百万円
5.1%

給袋自動包装機
1,802百万円
50.1%

ガス充填自動包装機
97百万円
2.7%

製袋自動包装機
546百万円
15.2%

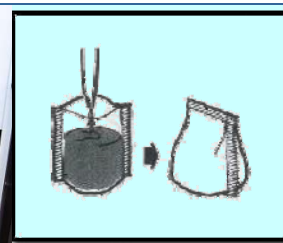


<2008/7期決算の状況>



品目内容

対象物(粉末・顆粒・固形物等)
を袋に充填して包装する機械



袋詰用包装機

給袋自動包装機

袋 → 給袋装置 充填・包装装置

菓子類、小麦粉、食品類、調味料、ペットフード、健康食品、医療用品、肥料、粉末薬品、電子部品等の袋詰用包装機。多品種少量生産向け。

製袋自動包装機

フィルム → 製袋装置 充填・包装装置

充填物は給袋自動包装機と同様。小袋の高速包装から大袋包装まで。フィルムから袋を作りながら包装する機械。

ガス充填自動包装機

袋 → 給袋装置 充填・包装・ガス充填装置

花かつお、バターピーナッツ等の袋詰用包装機。

包装関連機器等

付帯機器(充填機、計量機、計数機、印字機等)、段ボールケーサー、各種包装システム等

保守消耗部品その他

当社販売機械の保守、修理・交換用部品、印字機等の取付・改造等

袋詰用包装機⇒ロータリー式包装機が主力

メカニカル機構技術

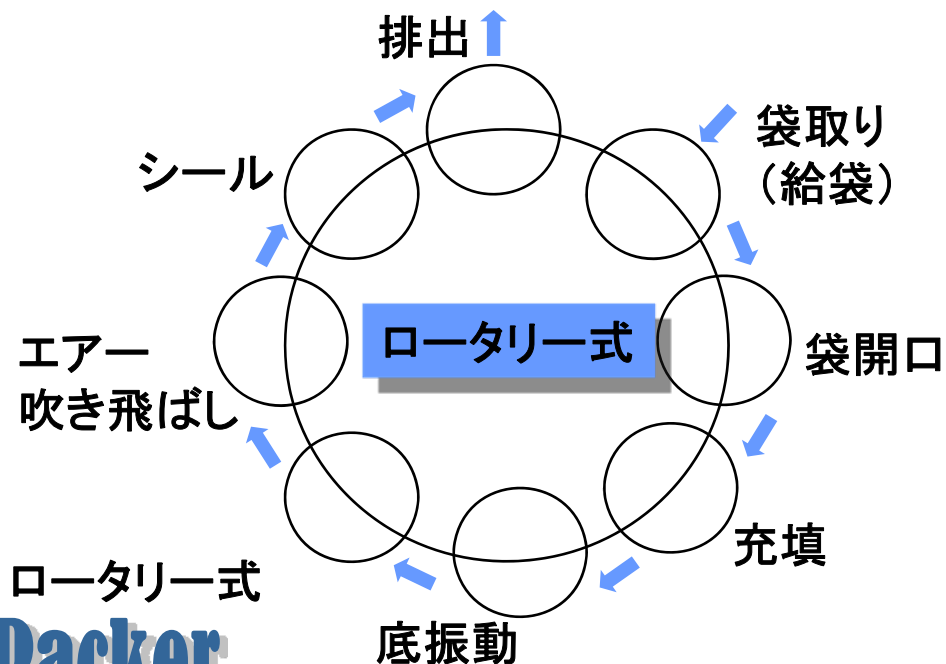
(1つの動力源からの主動作を、カムやリンク機構を用いて各動作に連動させる技術)

ロータリー式包装技術

汎用性高い

省スペース

高難度の包装に対応



Ⅱ. 業界の状況と 当社の特徴

包装機械業界

単位:億円

機種別	生産高
個装・内装機械	3,478
包装用計量機	223
充てん機	446
びん詰機械	500
製袋充てん機	572
真空包装機	108
その他	1,625
外装・荷造機械	813
ケース詰機	165
その他	648
合計	4,292

企業数 420社以上(専門メーカー 約240社)
中小企業が約9割

主な上場企業

専門メーカー:東京自動機械製作所

兼業メーカー:CKD、渋谷工業、オーエム製作所、
ファブリカヤマ 等

袋詰用包装機

当社の主力包装機の区分

当社:包装機械の専門メーカー

■ドライ物(粉末・顆粒・固形物等)の包装機械・システムに特化

- ・高品質・高難易度の包装分野
- ・チャック付袋包装、ガス充填包装等

主な競合先(ロータリ式包装機メーカー)

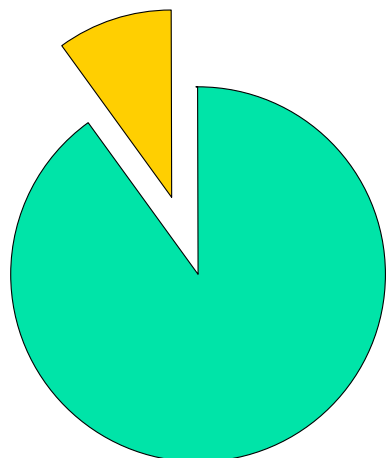
- ・東洋自動機(非上場):レトルト物の包装が主力
- ・古川製作所(非上場):ウェット物・真空の包装が主力

(社)日本包装機械工業会

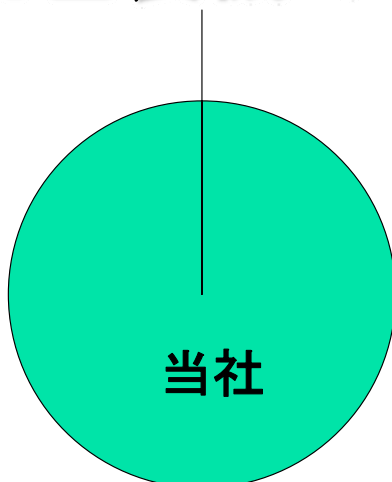
「包装機械及び荷造機械生産高統計」
平成19年度実績

多くの分野の袋詰用包装機でNo.1シェアを獲得

出所: 当社推定

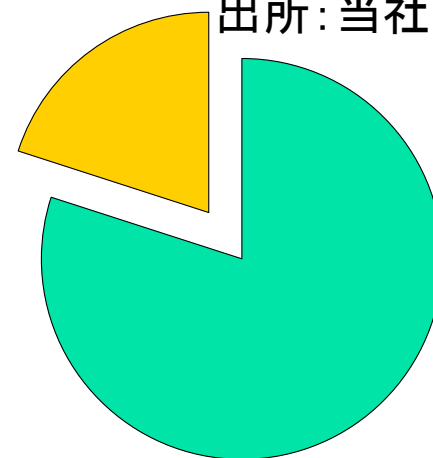


製粉

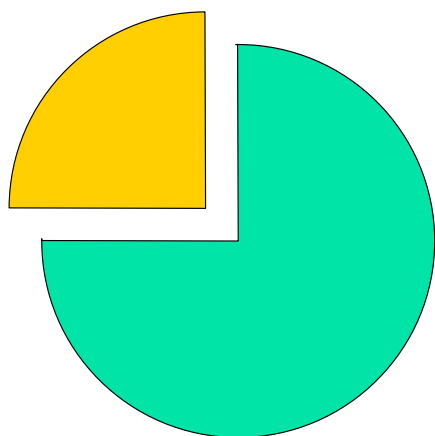


当社

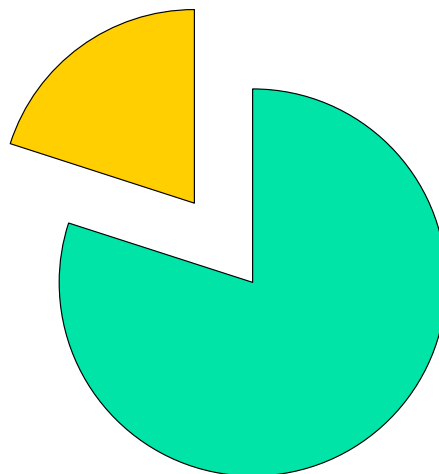
かつおミニパック



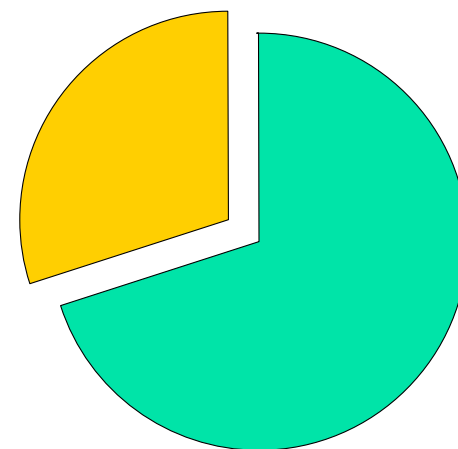
ロックアイス



ドリップ式コーヒー



精米



健康食品小袋

特徴－技術力

① 国内最高の高ガス置換技術を有する

- 削り節用包装機、ナッツ類用包装機でトップシェア

風味の保持←窒素ガスを封入、酸素を無い状態へ

当社：高ガス置換型

⇒残存酸素濃度 0.5%以下

他社：簡易ガス置換型

⇒残存酸素濃度 2%以上



特徴－技術力

②チャック付袋対応機種の豊富なラインナップ

■チャック付スタンドパウチ
対応機種(STタイプ)

■給袋自動包装機

7機種

■製袋自動包装機

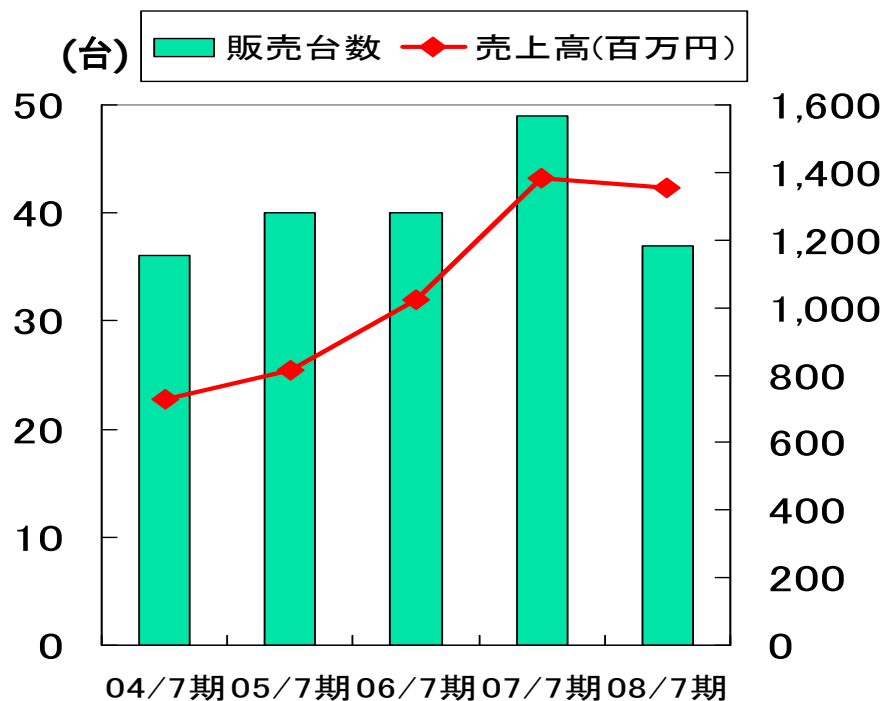
3機種

■チャック付製袋自動包装機

2機種

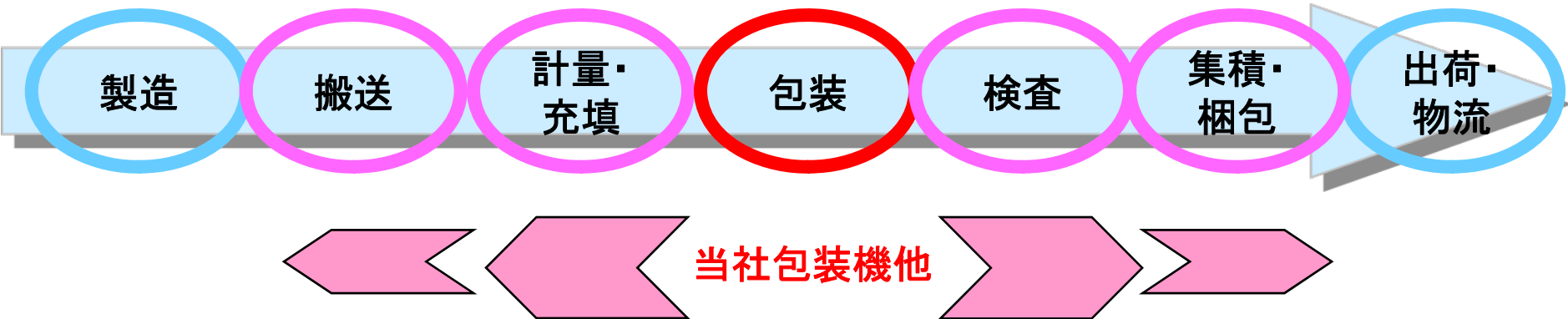


STタイプ販売台数／売上高



特徴－技術力

③包装システムのトータルプランニング



- 当社包装機をベースとしたトータルシステムの対応が可能
- 実績例：輸液バッグ包装システム
ドリップ式コーヒー包装システム 等

特徴－技術力

④医薬品・医療機器の包装

■輸液バッグ包装システム

- ・ガス充填包装
- ・バッグの受取・搬送・挿入・包装

■医薬品包装例

- ・プラスチックアンプル
- ・錠剤(素錠・PTP包装品)
- ・粉体薬品 等

■医療機器包装例

- ・シリンジ
- ・輸液チューブ
- ・医療用針 等



輸液ソフトバッグ



素錠



プラスチックアンプル

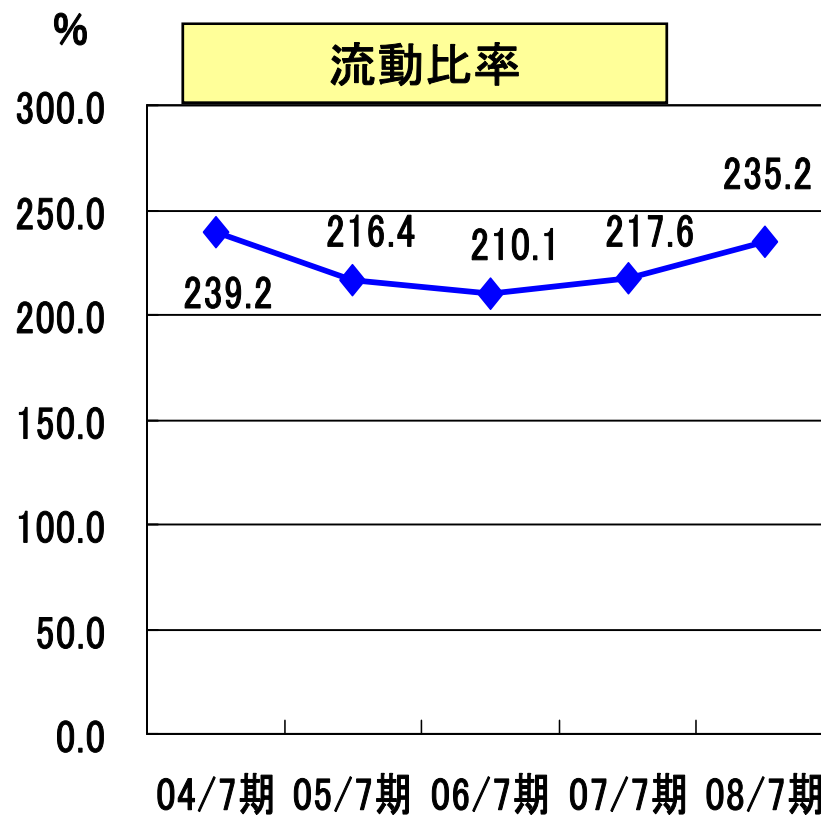
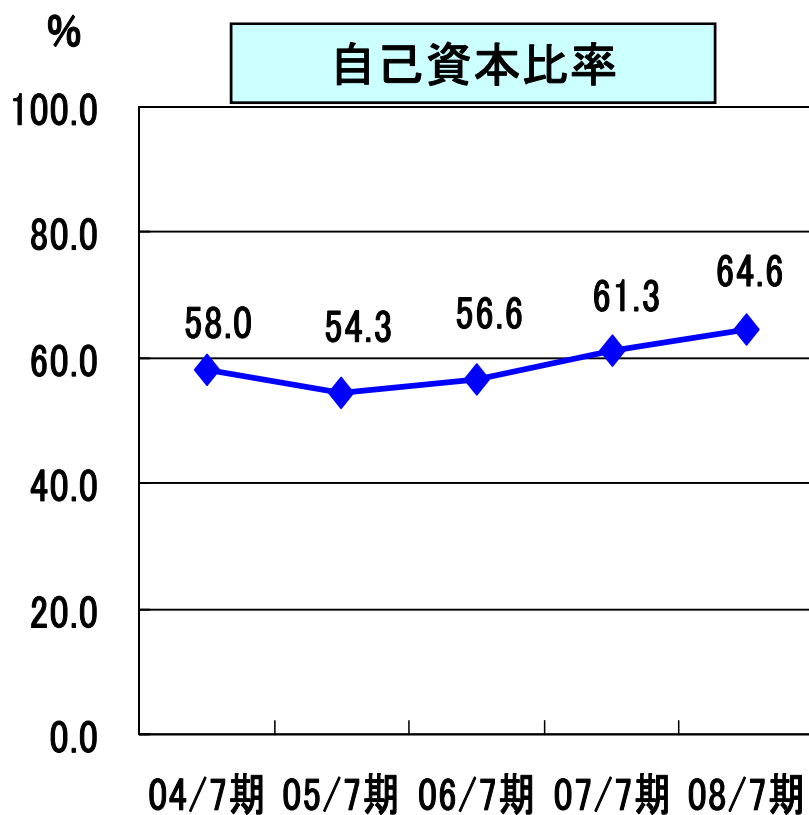


シリンジ

特徴－財務

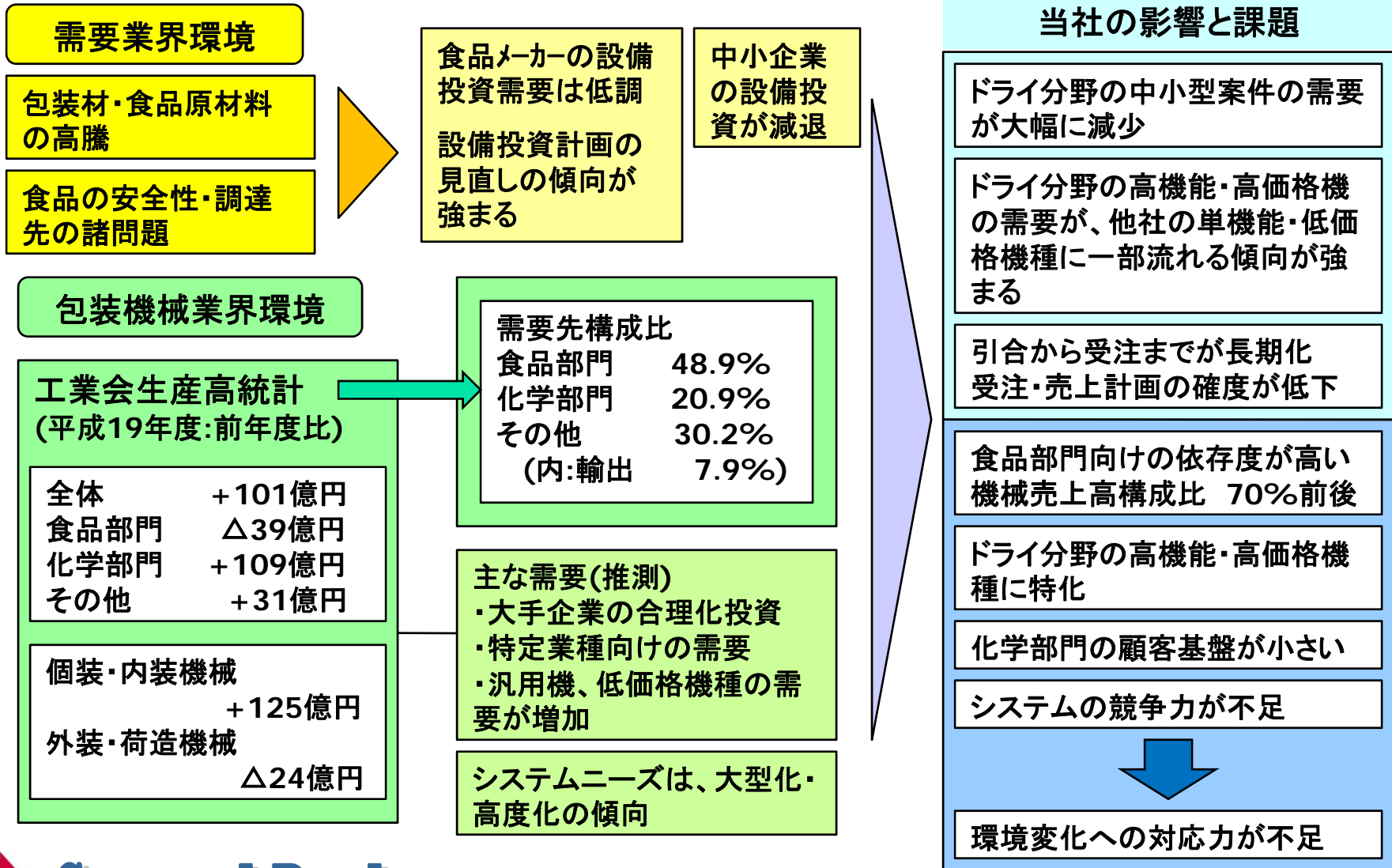
⑤高い財務の安全性

無借金経営



Ⅲ. 事業環境と業績動向

事業環境と現状認識 (08/7期末現在)

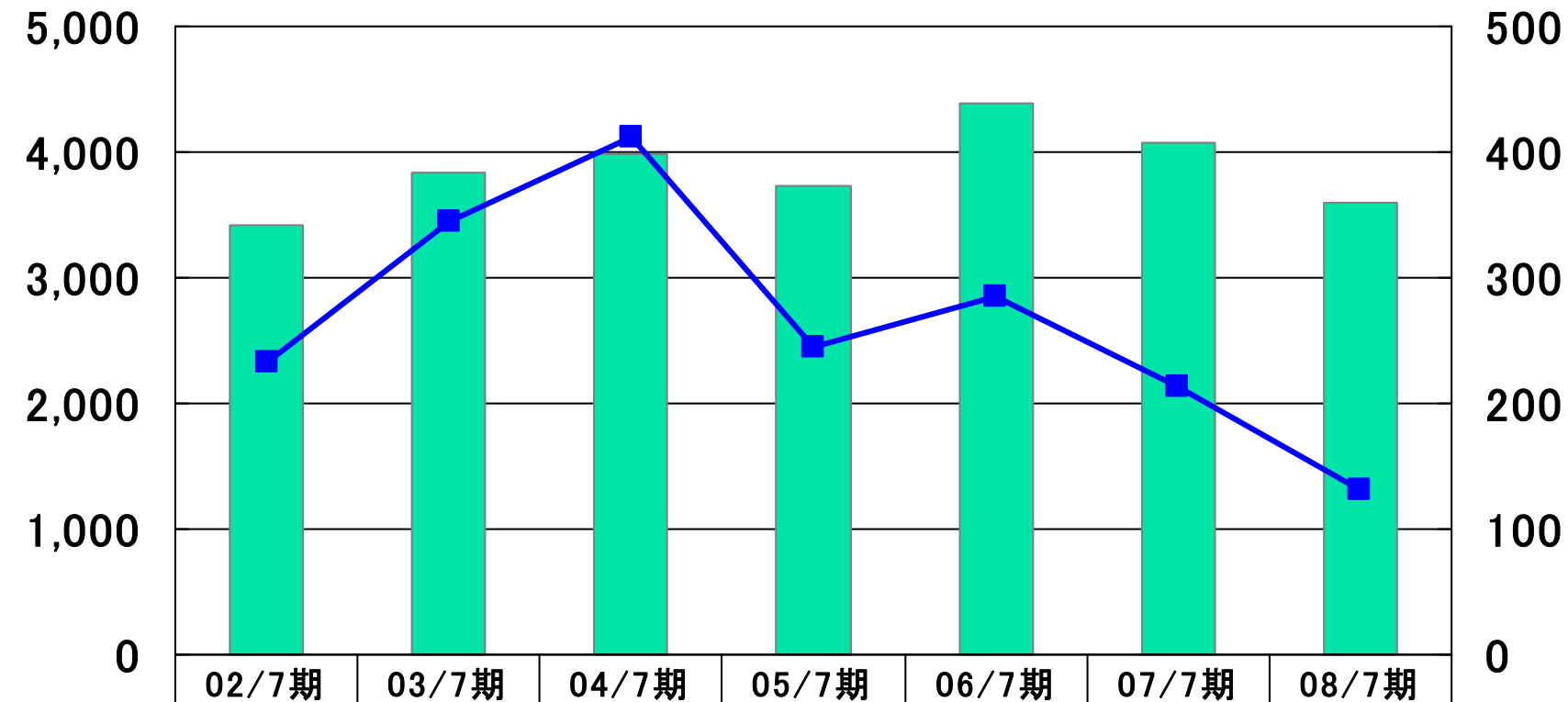


業績推移

事業環境変化への対応力・スピードが不十分であったことにより、直近2期間の業績が低迷

売上高 (百万円)

経常利益



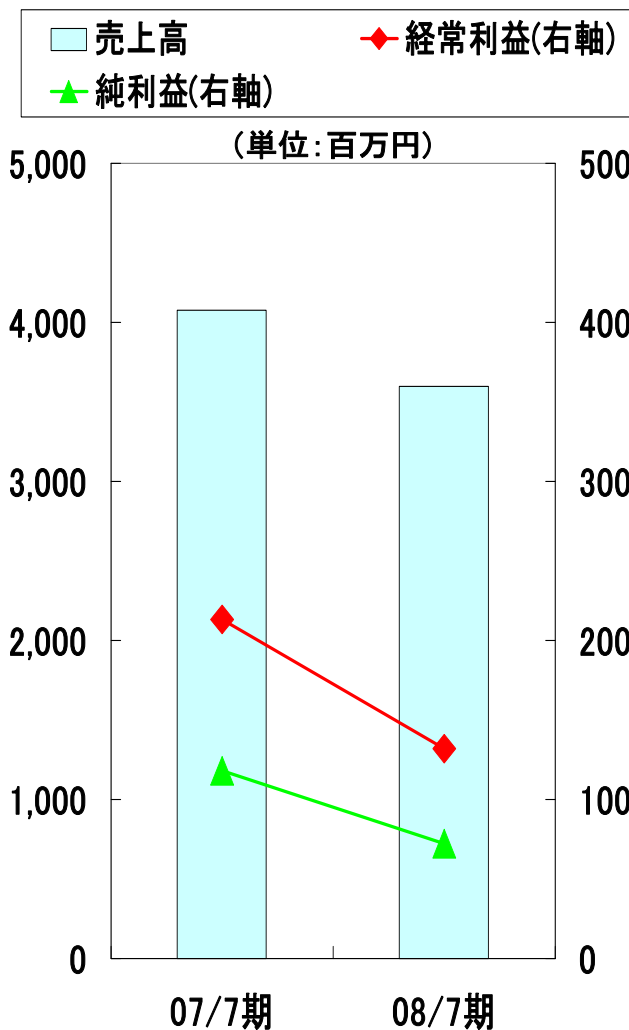
■ 売上高	3,414	3,829	3,983	3,726	4,394	4,074	3,597
■ 経常利益	233	345	412	245	285	213	132

2008年7月期決算の実績

中小型案件の需要が大幅に減退し、売上高・利益ともに減収・減益

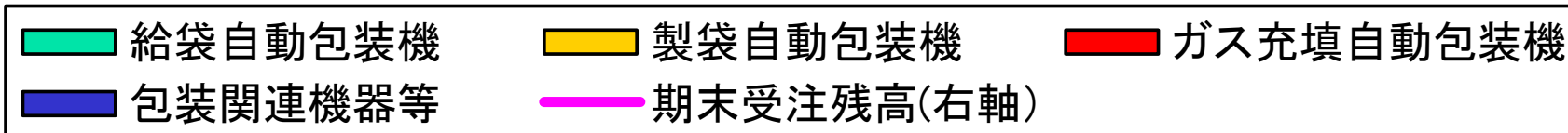
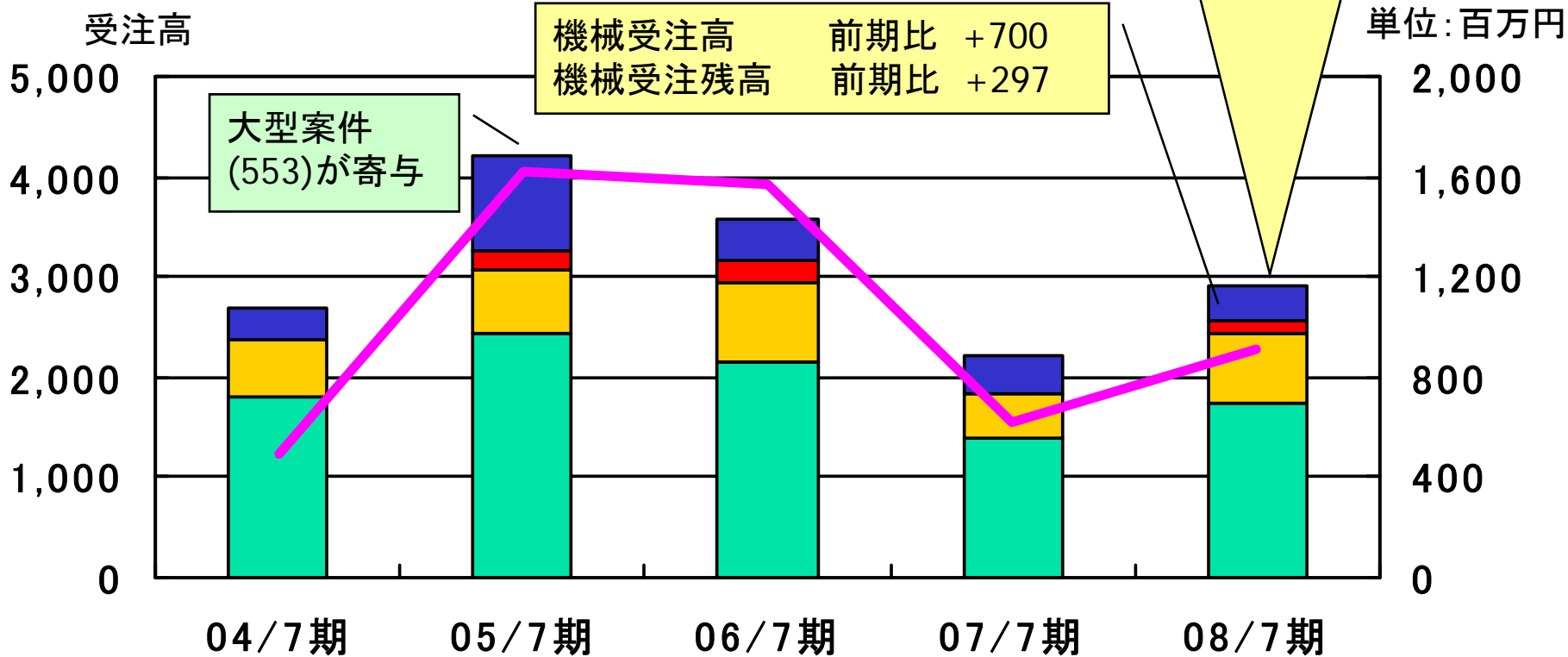
(単位:百万円、%)

	07/7期	08/7期	前期比	
	金額 (構成比)	金額 (構成比)	金額	率
売上高	4,074 (100.0)	3,597 (100.0)	▲477	▲11.7
売上総利益	1,086 (26.7)	923 (25.7)	▲163	▲15.1
営業利益	211 (5.2)	117 (3.3)	▲93	▲44.4
経常利益	213 (5.2)	132 (3.7)	▲80	▲37.8
当期純利益	118 (2.9)	72 (2.0)	▲46	▲39.0




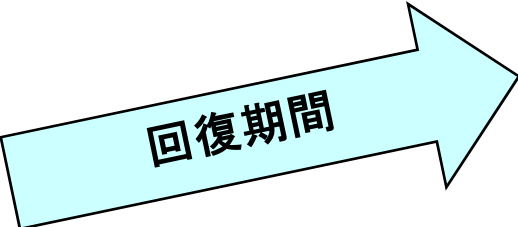
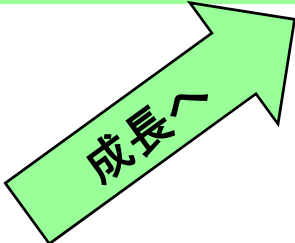
機械の受注動向

機械受注高;
大型案件(1億円以上/件)の実績が3件
(前期0件)、高価格機種も一部回復



IV. 新中期経営計画ならびに 2009年7月期業績見通し

第2次中期経営計画の位置づけ

第1次中計	第2次中計	第3次中計
<p>業績動向</p>  <p>減収・減益</p>	 <p>回復期間</p>	 <p>成長へ</p>
<p>成長基盤作りが事業環境変化に対応出来ず</p> <p>経営管理体制の強化は進展</p>	<p>将来の成長に向けた戦略的投資を推進</p>	
<p>新生ゼネラルパッカー(株)の社会的基盤固めの時期</p>	<p>将来の飛躍を目指すための成長基盤再構築の時期</p>	<p>飛躍の時期</p>
06/7期 07/7期 08/7期	09/7期 10/7期 11/7期	12/7期~14/7期

企業ビジョン

(第1次中期経営計画で掲げたビジョンを継続)

- 「社会・株主・顧客・取引先・従業員の全てに対し、誠実で透明性の高い経営を実践し、信頼され、支援される企業」の実現

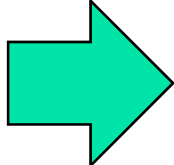


中期経営ビジョン

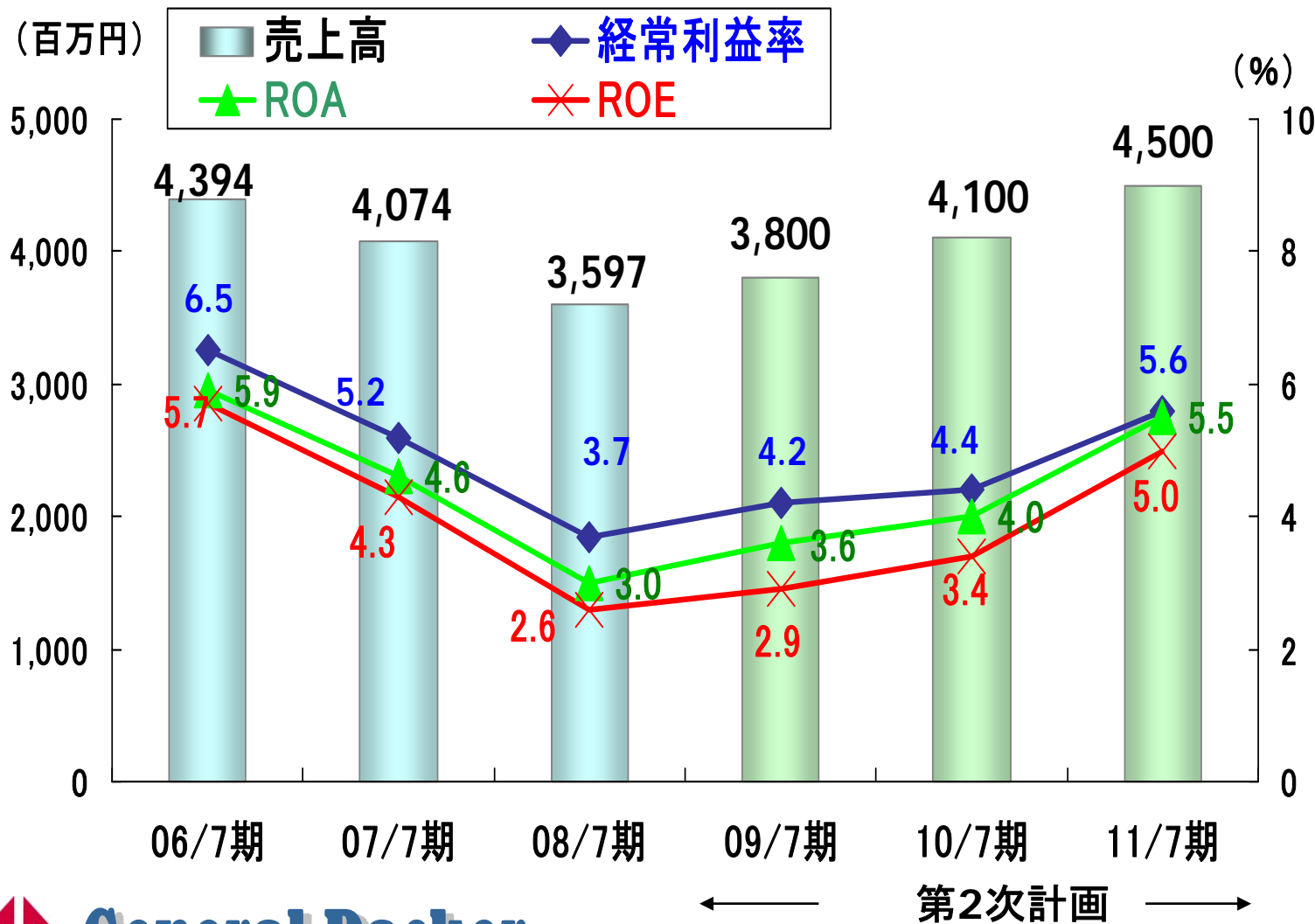
1. 世界に通用する包装機メーカー
2. 包装システムの高度化に応えるトータルプランナー
3. 挑戦心と活力あふれる『モノづくり企業』

中期数値目標

■経営目標	08/7期実績		11/7期目標
売上高経常利益率	3.7%		5%以上
ROA(総資産経常利益率)	3.0%		5%以上
ROE(自己資本当期純利益率)	2.6%		5%以上

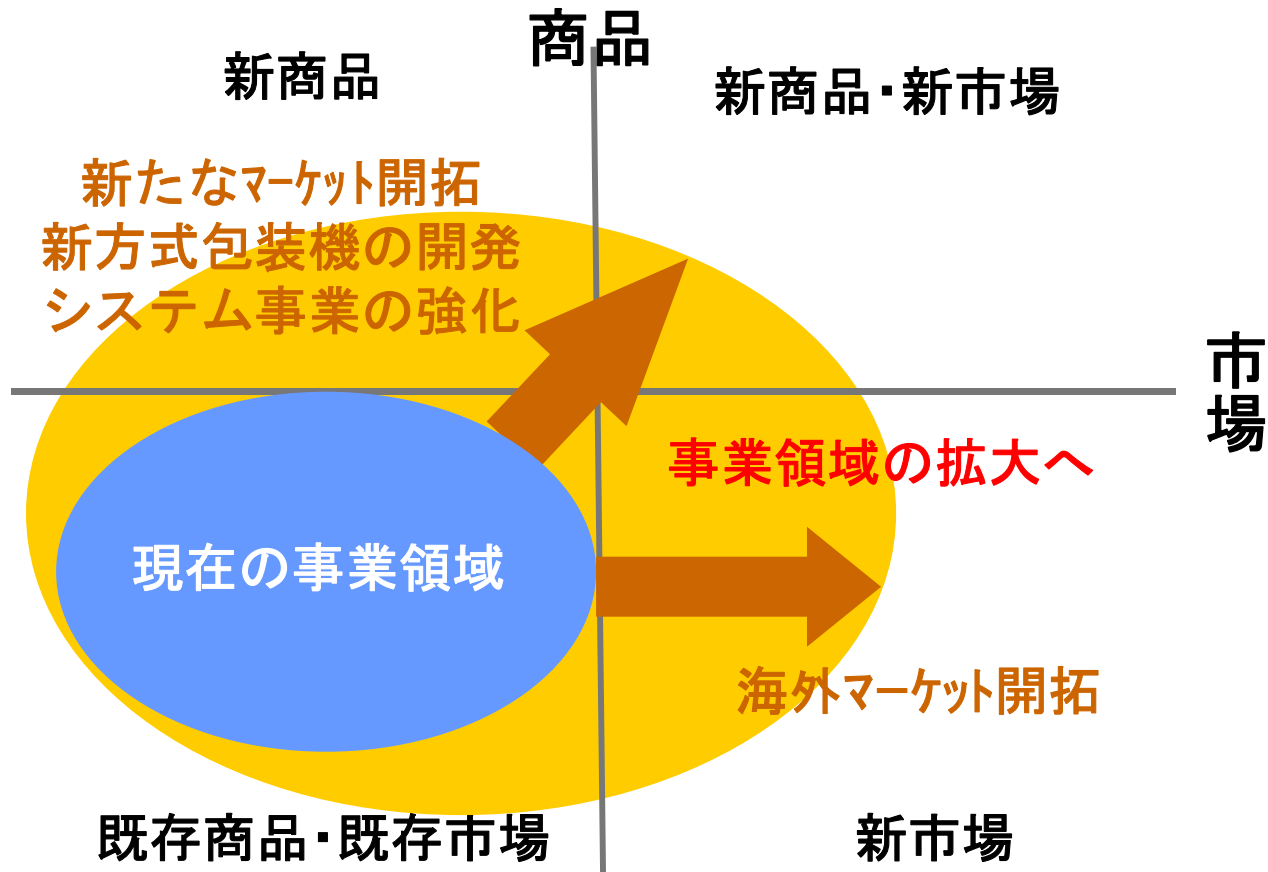
■業績目標	08/7期実績		11/7期目標
売上高	3,597百万円		4,500百万円
営業利益	117百万円		245百万円
経常利益	132百万円		250百万円
当期純利益	72百万円		140百万円

経営目標・業績目標



基本戦略

「包装システムのトータルプランナーとして 事業領域の拡大を目指す」



事業計画モデル

売上高(単位:百万円)	08/7期実績	09/7期予想		11/7期計画
国内既存市場 (保守消耗部品含む)	3,080	3,000	→	2,700
海外市場 (海外部品含む)	370	400	→	700
システム事業	145	300	→	600
新方式包装機 新たなマーケット開拓		100	→	500

基本戦略

- ①商品競争力の強化と業界別ニッチトップ戦略の推進を図り、ドライ分野のロータリー式自動包装機国内シェアNo.1を維持する
- ②新たなマーケット開拓のために、独創的な商品開発を推進する
- ③システム事業の独自性を強化し、売上拡大を目指す
- ④中長期的に海外売上高比率20%を目指して、海外マーケット開拓の強化を図る
- ⑤事業・技術提携も視野に入れながら、事業領域の拡大を推進する
- ⑥将来の飛躍に向けた人材確保、人材育成の強化を図る

事業領域の拡大へ

主な経営施策

販売戦略

- ① 海外販売体制の強化
- ② 新機種と包装形態の提案による新たなマーケットの開拓
- ③ 自社ブランドシステムの商品化とシステム営業体制の強化
- ④ 食品業界以外の新規顧客開拓の強化
- ⑤ 業界大手上位への重点営業の継続強化

■ 新規顧客・販路開拓の実績

受注実績ベース	06/7期	07/7期	08/7期
新規顧客開拓数	28社	21社	30社
新規販路開拓数	2社	3社	3社

■ 今後の主な取り組み

- 化学業界・製薬業界を重点的に開拓
- 新機種販売による開拓

現状の課題
食品業界以外の開拓が少ない

海外販売体制の強化

■海外市場の実績

* 海外部品売上高含む

	06/7期	07/7期	08/7期
海外売上高*	283百万円	580百万円	371百万円
売上高構成比	6.4%	14.2%	10.3%
輸出国	フランス、ロシア、 ブラジル、アルゼンチン、 タイ、中国 等	フランス、アメリカ、 ポーランド、ベトナム、 インドネシア、中国 等	フランス、アメリカ、 カナダ、イギリス、 インドネシア、タイ等

08/7期

■海外営業担当者の設置

■米国の包装機械エンジニアリング会社(PTI社)と代理店契約を締結

■今後の主な取り組み

■海外展示会への出展

■各地域(米国・ヨーロッパ・東南アジア)の代理店・窓口の販売支援強化

■海外営業担当の強化

トピックス 海外展示会へ出展

■PACK EXPO International 2008(シカゴ)

11月9日～13日

PTI社ブースへ給袋自動包装機を展示
GP-2000UST(米国仕様)



開発・技術戦略

- ①研究開発投資の増加による開発力の強化
- ②ロータリー式自動包装機のコア技術開発の強化
- ③新たなマーケット開拓のための新方式包装機の開発
- ④主力機種のカスタム 対応力の強化
(新機種開発、カスタム設計力の強化)
- ⑤海外向け仕様機設計とコストダウン設計の 強化

生産戦略

- ①海外納入機の立ち上げ・ アフターサービス対応力の強化
- ②高品質体質の構築と技術伝承の推進
- ③「見える化」と生産管理改善による生産性向上
- ④在庫管理の徹底による棚卸資産回転率の向上

マネジメント戦略

- ①基本戦略に適合した組織体制の整備と 戦略的投資の推進
- ②人材の確保・育成体制の強化
(研修制度の充実と技術・技能伝承の強化)
- ③内部統制システム運用体制の確立とリスクマネジメント体制の強化
- ④投資家や就職活動者に対する認知度の向上

IT戦略

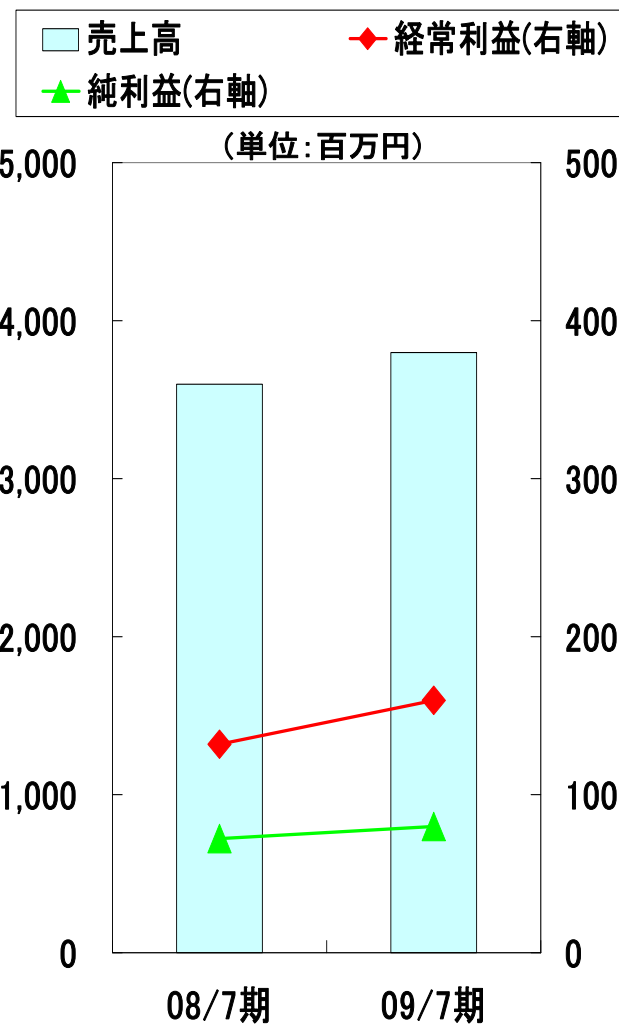
- ①ホームページの充実化と戦略的活用の強化
(販売戦略・求人活動・IR活動向け)
- ②財務報告の信頼性と早期化を確保する情報システムの整備
- ③モノづくり力強化や業務改革のためのIT導入・活用の推進
(CADシステム、生産管理システム、組立・出張作業のIT機器活用等)

2009年7月期業績予想

大型案件や高額機種の需要が一部回復し、売上高・利益ともに増収・増益

(単位:百万円、%)

	08/7期	09/7期	前期比	
	金額 (構成比)	金額 (構成比)	金額	率
売上高	3,597 (100.0)	3,800 (100.0)	+202	+5.6
売上総利益	923 (25.7)	1,042 (27.4)	+118	+12.9
営業利益	117 (3.3)	157 (4.1)	+39	+33.3
経常利益	132 (3.7)	160 (4.2)	+27	+20.8
当期純利益	72 (2.0)	80 (2.1)	+7	+10.8

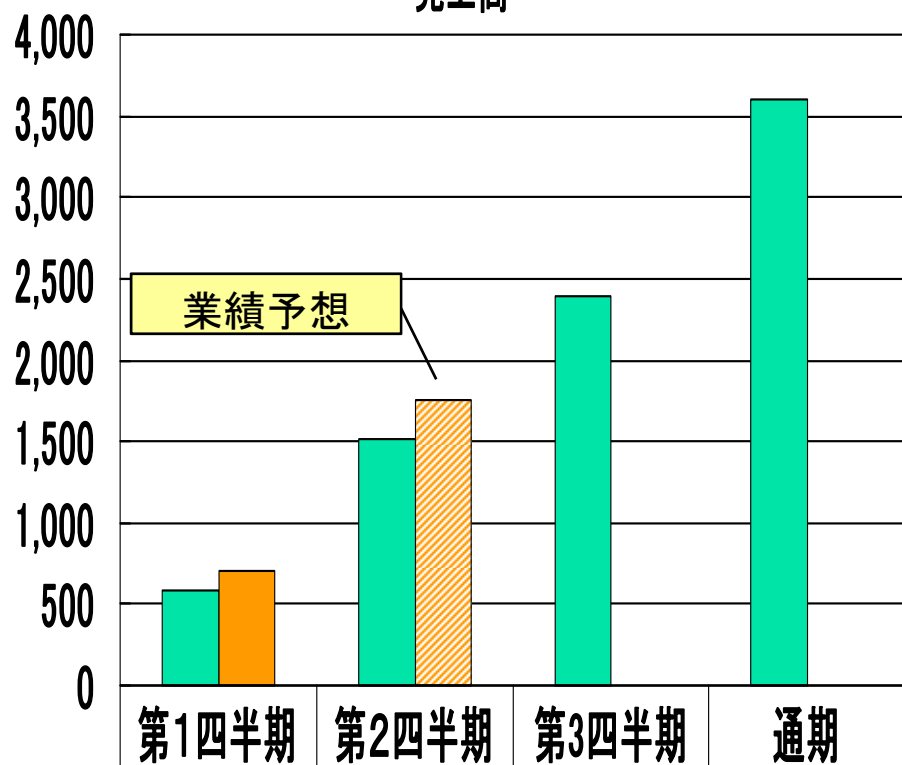


2009年7月期 第1四半期の業績

第1四半期は増収・増益、売上高・受注高ともにほぼ計画通りに推移

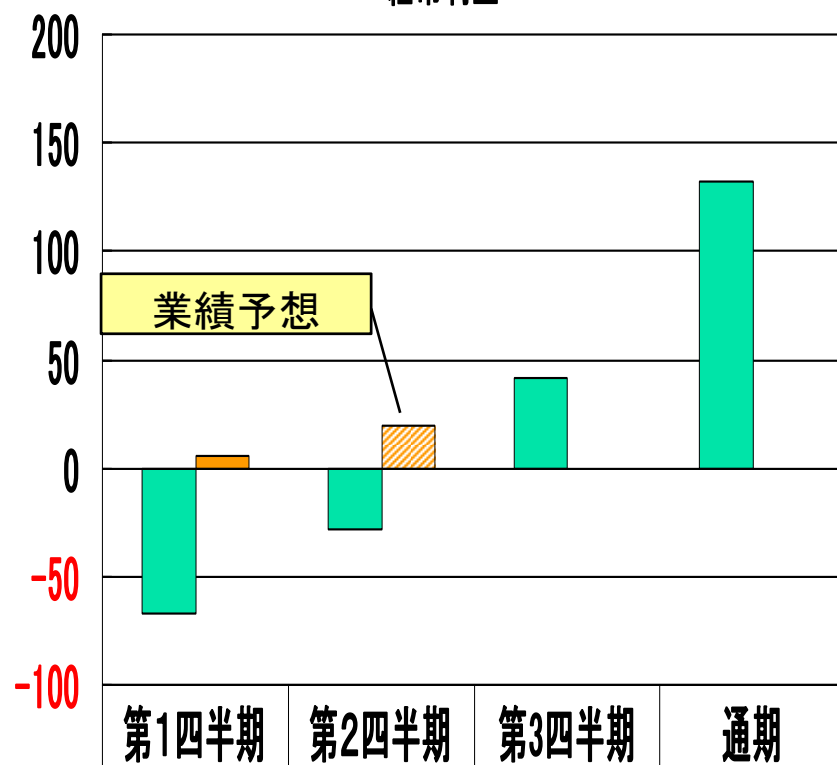
(百万円)

売上高



(百万円)

経常利益



株主還元

中期配当政策

- 株主の皆様への積極的な利益還元を図ることを基本方針として、配当性向50%または純資産配当率(DOE)2%を目安に、安定配当を堅持しつつ、業績動向を見ながら配当金の増加を目指す。

	2007/7期	2008/7期	2009/7期予想
中間配当	7円	3.50円	3.50円
期末配当	3.50円	3.50円	3.50円
年間配当	10.50円	7円	7円
当期純利益／株	13.17円	8.03円	8.90円
配当性向	53.1%	87.2%	78.7%
DOE	2.3%	2.3%	2.3%

* 2007/7期の1株当たり当期純利益及び配当性向は、株式分割による遡及調整後

包装システムの市場創造型トータルプランナー ゼネラルパッカー株式会社

当資料取り扱い上の注意点

当資料には将来見通しが含まれております。将来見通しは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。この将来見通しは仮定または仮定に基づく根拠が含まれており、環境によっては想定された事実や根拠は実際の結果とは異なる場合があります。当社または当社の経営者は将来の結果についての期待または確信を述べていますが、その期待や確信、あるいはそれに近い結果が実際に達成されるという保証はありません。また法令上、別途の定めがある場合を除き、当社はいかなる将来見通しも最新のものとする義務を負っておりません。

【IR窓口】 経営企画室 長谷川
〒481-8601
愛知県北名古屋市長福寺神明65
電話:0568-23-3111
FAX:0568-22-3222
E-mail:info@general-packer.co.jp

